

## 第3部 産(婦人)科病棟婦長が考える助産婦の役割

### 1. 病院の経営主体 (表3-1)

この調査に回答を寄せてくれた産(婦人)科病棟婦長の病院の経営主体は、「市町村」が24.5%と最も多く、次いで「医療法人・個人」14.5%、「その他の公的医療機関」13.3%となっている。

### 2. 病院の種類 (表3-2)

病院の種類は、「総合病院(大学病院を除く)」が78.2%と最も多い。

### 3. 産科系病棟の構成 (表3-3)

産科系病棟の構成は、「混合病棟」が46.8%と最も多く、次いで「産婦人科病棟」が41.3%とな

っている。

### 4. 助産婦の採用 (表3-4)

「貴病院では、助産婦を『助産婦』として採用していますか」という問いに、80.1%が「はい」と答えている。「いいえ」と答えている18.7%にその理由をたずねたところ、「病院の方針」と答えている割合が最も高く、76.7%であった。

### 5. 助産婦のローテーション (表3-5)

「貴病院では、助産婦を産(婦人)科以外にローテーションしますか」という問いに40.0%が「はい」と答えている。ローテーションする理由をフ

表3-1 病院の経営主体

国立(厚生省)	58	( 6.8)
国立(文部省)	35	( 4.1)
国立(その他)	7	( 0.8)
都道府県	84	( 9.9)
市町村	208	(24.5)
日赤	53	( 6.2)
その他の公的医療機関	113	(13.3)
社会保険関係団体	51	( 6.0)
学校法人	42	( 4.9)
医療法人・個人	123	(14.5)
その他	63	( 7.4)
無回答	12	( 1.4)
合計	849	(100.0)

表3-2 病院の種類

大学病院	89	(10.5)
総合病院(大学病院を除く)	664	(78.2)
その他の病院	86	(10.1)
無回答	10	( 1.2)
合計	849	(100.0)

表3-3 産科系病棟の構成

産科単独病棟	90	(10.6)
産婦人科病棟	351	(41.3)
混合病棟	397	(46.8)
その他	2	( 0.2)
無回答	9	( 1.1)
合計	849	(100.0)

表3-4 貴病院では、助産婦を「助産婦」として採用していますか

はい	680 ( 80.1)
いいえ	159 ( 18.7)
無回答	10 ( 1.2)
合計	849 (100.0)

→ 助産婦として採用していない理由

本人の希望	5 ( 3.1)
病院の方針	122 ( 76.7)
その他	27 ( 17.0)
非該当	5 ( 3.1)
無回答	0 ( 0.0)
合計	159 (100.0)

フリーアンサーで答えてもらった。その結果は以下の通り。

- ・看護職としての知識、技術を習得。
- ・看護婦として広く人間全体をみるようにさせる。
- ・業務に必要な能力の習得のため関連科へ配置する。
- ・継続看護のため。
- ・他科で専門性を発揮してほしい。
- ・人間性の向上のため。
- ・病院の機構・職種・部署間の理解・協力のため。
- ・管理職への昇進準備のため。
- ・マンネリ化の防止。
- ・本人の希望。
- ・妊娠・産休明け、育児休暇、夜勤免除のため。
- ・看護部、病院、医師の方針。
- ・助産婦数が多いので調整のため。
- ・その他（人間関係・助産婦業務への能力・適性に欠けるなど）。

6. 看護方式

「貴病院の産（婦人）科病棟ではどのような看護方式をとっていますか」という問いに、「チームナーシング方式」という答えが70.3%と最も多く、次いで「機能別看護方式」43.9%であった（表3-6）。

また、「その看護方式で実践して、助産婦としての仕事は達成されているとお思いですか」という問いに「はい」と答えている割合は47.6%、「いいえ」と答えている割合は46.9%と、仕事の達成感に関する印象はほぼ半々であった（表3-7）。

また、「いいえ」と答えている婦長に、どのような問題があるかをフリーアンサーで答えてもらった。その結果を看護方式ごとにまとめた。

表3-5 助産婦のローテーション

はい	340 ( 40.0)
いいえ	499 ( 58.8)
無回答	10 ( 1.2)
合計	849 (100.0)

表3-6 看護方式（複数回答）

機能別看護方式	370 ( 43.9)
チームナーシング方式	597 ( 70.3)
プライマリーナーシング(受持制母児看護)	130 ( 15.3)
その他	2 ( 0.2)
回答者数	849 (100.0)

表3-7 その看護方式で実践して、助産婦としての仕事は達成されていると思いますか

はい	404 ( 47.6)
いいえ	398 ( 46.9)
どちらともいえない	3 ( 0.4)
無回答	44 ( 5.2)
合計	849 (100.0)

#### 《チームナーシング》

- ・助産婦の数が足りない。
- ・継続的な保健指導ケアができない。
- ・混合病棟であるため助産婦業務に専念できない。
- ・外来・分娩時に関わった助産婦を受持ちとしているが、体制上1人のケースとの関わりが持てない、責任の所在が曖昧。
- ・助産婦個々の役割認識が薄く、入院から退院まで責任を持つという姿勢を知らない。
- ・個々の助産婦に充実感がない。
- ・准看護婦、看護婦、助産婦の中でのチームナーシングはむずかしい。
- ・母と児を別々に受け持っているため十分な情報交換がなされない。

#### 《機能別看護方式》

- ・混合病棟のため（日常業務に流され妊産褥婦との信頼関係が得にくい、助産婦の責任・主体性が希薄、医師の方針で処置方法が決まってしまうなど）。
- ・助産婦・看護婦数が足りない。
- ・個別・継続した看護ができない。
- ・与えられた仕事だけしていればよいという考え方になる。

#### 《プライマリナーシング》

- ・助産婦の人員不足。
- ・受持制にしても他の業務もこなさなければならぬため、母親への援助の時間がとれない。
- ・勤務体制上、継続性と責務に欠ける。
- ・オーバーワークになってしまう。
- ・助産婦と看護婦の勤務配置が困難。

#### 7. 助産婦が行っている業務（表3-8）

業務に関する33の項目を示し、これらの業務を日常的に行っている業務か、緊急時のみに行っている業務か、また行っていない場合、今後助産婦にも行わせたい業務か、助産婦は行うべきではないと考える業務かについてたずねた。

その中で、現在は行っていないが今後行わせたいと考える業務について比較的高い割合を占めている業務をみると、「妊娠診断」47.3%、「妊婦定期健診」63.1%、「妊婦の超音波診断」55.9%、「褥婦1ヵ月健診」61.1%、「新生児1ヵ月健診」47.6%となっている。

一方、助産婦は行うべきではないと答えている割合が高い業務をみると、「軟産道裂傷縫合術」58.2%、「胎盤用手剥離」65.4%、「吸引分娩」82.4%、「骨盤位牽引術」57.7%、「子宮・膣強填タンポン挿入」49.0%、「気管内挿管による新生児仮死蘇生術」55.5%となっている。

#### 8. 助産婦が専門性を発揮しているか（表3-9）

「貴病院では、助産婦がその専門性を発揮して仕事をしていますか」という問いに、59.0%が「はい」と答えている。

「いいえ」と答えている37.2%に、専門性を発揮していない理由をフリーアンサーで答えてもらった。その結果をみると、医師との関係が1つの大きな要因となっている。

「正常分娩でも医師が立ち会い、医師依存的になってしまう」「ハイリスク分娩が多い」「病院が医師の教育機関である」。また、「混合病棟のため、助産婦業務に専念できない」「助産婦数の不足。助産婦の業務を看護婦が行っている」などの理由が多くあげられていた。

表 3-8 助産婦が行っている業務

% N = 849

	助産婦が行っている		助産婦は行っていない		無 回 答
	助産婦が日常的に行っている	助産婦は緊急時のみ行っている	今後は助産婦にも行わせたい	助産婦は行うべきではない	
妊娠診断	3.4	8.0	47.3	33.8	7.4
妊婦定期健診	15.4	5.4	63.1	10.5	5.5
妊婦の超音波診断	1.3	3.5	55.9	31.3	7.9
妊産婦個別保健指導	76.4	6.7	13.2	0.2	3.4
妊産婦集団保健指導	89.6	0.6	6.8	0.1	2.8
分娩進行の診断(内診)	95.1	2.8	0.8	0.5	0.8
分娩監視装置・胎児心電計使用	96.0	1.3	0.8	0.4	1.5
母体の酸素吸入	80.9	16.5	0.6	0.2	1.8
人工破膜	65.1	27.1	3.5	2.4	1.9
正常分娩介助	95.3	1.9	1.2	0.1	1.5
会陰切開術	13.4	45.8	17.9	19.8	3.1
軟産道裂傷縫合術	2.9	11.1	23.7	58.2	4.1
子宮収縮剤使用	21.8	22.3	14.7	37.2	4.0
胎盤用手剥離	1.8	14.3	14.8	65.4	3.8
吸引分娩	0.2	2.5	10.6	82.4	4.2
骨盤位牽引術	0.8	13.8	23.0	57.7	4.7
子宮・膣強填タンポン挿入	1.5	23.3	19.7	49.0	6.5
膣洗淨	26.4	20.0	24.4	21.7	7.3
産褥期の乳房管理	96.3	0.9	1.2	0.2	1.3
褥婦1ヵ月健診	9.4	1.5	61.1	23.4	4.0
新生児仮死蘇生術(用手的)	21.4	58.1	8.2	9.0	3.3
気管内挿管による新生児仮死蘇生術	0.5	5.5	32.9	55.5	5.7
簡易人工呼吸器(バックアンドマスク)使用	10.2	46.5	17.9	19.9	5.4
陰陽圧新生児仮死蘇生器(レスピレーター)使用	2.6	10.8	18.5	60.2	7.9
新生児への酸素投与	43.8	43.9	3.8	5.8	2.6
新生児モニター使用	41.9	22.3	20.0	9.3	6.5
ブルーライト使用	57.4	6.9	10.2	16.8	8.6
V.K <sub>2</sub> 投与	79.5	3.2	2.7	10.5	4.1
新生児1ヵ月健診	8.5	1.3	47.6	34.9	7.8
皮下注射・筋肉注射	59.8	11.9	6.0	18.4	3.9
静脈注射	52.2	14.5	4.7	25.3	3.3
点滴静注による輸液	51.2	13.9	5.4	25.8	3.7
非観血的心臓マッサージ(新生児)	11.9	52.3	13.1	18.3	4.5

表 3-9 貴病院では、助産婦がその専門性を発揮して仕事をしていると思いますか

はい	501	( 59.0)
いいえ	316	( 37.2)
どちらともいえない	12	( 1.4)
無 回 答	20	( 2.4)
合 計	849	(100.0)

### 9. 助産婦の課題

自病院の助産婦の今後の課題について、フリーアンサーで答えてもらった。その結果、「保健指導の充実」「継続看護の実施」「様々な側面の教育研修を受けること」「助産婦としての自覚を持

つ」「アイデンティティの確立」「医師に依存しない」「業務の見直しと業務の拡大」「産褥期のケア」「母乳外来のシステム整備」「助産診断と判断力を身につける」「受持制の実施」「専門職間や地域とのネットワークの拡充」などが多くあげられていた。

## 10. 助産婦への期待

助産婦に期待することをフリーアンサーで答えてもらった。その結果を病棟の種類ごとに分類した。

### 《産科単独》

- ・助産婦の独占業務や独自性を院内外にしっかりアピールしてほしい。また妊娠診断、定期健診、画像診断など独占業務の拡大も行ってほしい。
- ・分娩介助のみに固執せず、女性のライフステージに関わる助産婦として技術や人間性の向上に努めてほしい。
- ・広い視野で、感性豊かな助産婦であってほしい。
- ・看護観を持ち、自己学習の意欲を持ち、新しい医療を取り入れてほしい。
- ・開業権についてもっと真剣に考え、生かすべきである。
- ・助産婦教育を見直してほしい（専門性の範囲の拡大、教育が保守的）。
- ・受持制母児看護の実践と助産婦の増員をしてほしい。
- ・正常分娩や保健指導にもっと積極的に取り組んでほしい。
- ・合併症妊婦に対応できるよう、他科の勉強をしてほしい。
- ・入院中問題のあったケースなどに訪問看護を

行ってほしい。

- ・地域の社会資源を活用するなど広く関わってほしい。
- ・看護研究に取り組んでほしい。
- ・学生や後輩の指導をしてほしい。
- ・業務整理を行ってほしい。
- ・助産婦を対象とした独自の卒後教育を考えてほしい。

### 《産婦人科》

- ・少産時代を迎えた現在、きめ細かい個別指導の提供をしてほしい。
- ・専門職としての業務を確立してほしい（医師に頼らない、業務の拡大、助産婦外来の確立、保健指導のみに重点を置かず、カウンセリングのできる助産婦）。
- ・社会に評価されるよう、ニーズに応じた看護サービスの提供と、専門職としてアピールしてほしい。
- ・開業をめざしてほしい。
- ・受持制母児看護の実践をしてほしい。
- ・研究発表をしてほしい。
- ・各ライフステージに関わる助産婦になってほしい。
- ・産婦人科以外でも活躍してほしい。
- ・看護婦の一員として指導力を発揮してほしい。
- ・助産婦としてのプライドと責任を持ってほしい。
- ・人間的に成長してほしい。
- ・妊産婦保健指導の充実と知識技術の向上。
- ・正常分娩は助産婦が行ってほしい。
- ・結婚後も仕事を続けてほしい。
- ・看護過程や記録の工夫を行ってほしい。

### 《混合病棟》

- ・保健指導を充実してほしい。

- ・他科を経験し、充実した看護を提供してほしい（助産婦であることも忘れずに）。
- ・混合病棟の体制に流されることなく専門性を発揮してほしい。
- ・受持制看護を実施してほしい。
- ・リーダーシップを発揮して、後輩を育成してほしい。
- ・地域活動、助産婦同士のネットワーク作りをしてほしい。
- ・女性のライフステージに関わる助産婦であってほしい。
- ・自分の関わったケースに最後まで関心を持つなど、責任ある態度で臨んでほしい。
- ・学会、研修会に積極的に参加してほしい。
- ・助産婦業務を拡大してほしい。
- ・訪問看護、家庭訪問をしてほしい。
- ・看護婦に対して親切な指導をしてほしい。
- ・体験だけに固執しないでほしい。
- ・乳房管理を行ってほしい。